

松平陸奥守父子松平大隅守酒造越前守
 此三家庶流此儀代大名諸流此奏名番
 斗より細也与完ハ使ハ名職ハ左圓
 互是之面ハ八名及子儀ハ
 但右外八何ハ儀ハ嫌ハ不及ハ
 一竹子代極ハ儀ハ不及ハ
 右之通ハ云相達ハ

定式御祝儀等之部

寛永二十六年八月

諸大名御札の取次

一 圓持大名等付込以上

此外右の内へ交出流

松平越前守

松平總次代

松平三左衛門

一 江戸へ流

此外右の内へ交出流

有馬中督大補

松平万子代

松平又三郎

黒田吉玄清

松平對馬
伊達左京宛

一 浪濤代一 江島宛

一 浪濤代大名 中 大名 每 國 時 交 手 方 石 以 上 宛

計外 右 内 上 交 出 宛

松平子榮

織田伊豆宛

松平内内宛

酒井橋津宛

水野徳前宛

石川渾正

小笠原玄祐

松平飛松

井伊每小宛

鍋沼甲斐宛

鍋沼利親

山内修理

京極下總宛

井伊子一助

井伊飛一助

小笠原大和

戸田宗女

一 浪濤代宛 中 大名 走 方 石 以 上 一 懸 宛

松平徳定宛

松平玄蕃宛

酒井長門宛

本堂伊勢

松平元右宛

山名至成

松前每一助

右 通 互 相 定 一 旨 向 後 石 禮 贈 次 濟 禮 可

以上為任用之事

明曆二酉年二月

元

一 拾万石以上の國持大名近先は尚年三ヶ年、月八
系勤進也

一 時服拾万石馬代

賞金三ヶ枚

一 同三重御方馬代

賞金三ヶ枚

一 同二重御方馬代

賞金三ヶ枚

以上一月急分限以上は上之事

一 九万石より五万石迄御方馬代賞金三ヶ枚

一 四万九千石以下は御方馬代白銀三ヶ枚

一 五万石より國持大名迄歳暮、御儀進上

一 呉服又

一同二重

一同三

一同三重

右急分限以外は同上は上、端午重陽七粒以

上為減かけ外常、八粒を賜つては献上之事

一 下は寄儀賜答ハ系勤端午重陽歳暮

以上以上為任用之事

二月

延寶三卯年十二月

光

一 出仕日、御去園の苗与辰所の後園持名
其介の口品の以上又知少の一面のと家来の一
用可の有の一先病字の良乃の使の種秋の
系の以の後の所の御去園の辰月付の一の
所の通の事の

一 主人 御目見の一の家の内の也

城の之の良の苗の与の辰の出の仕の後の一の為の之の用の事の

出仕の一面の一の并の家来の辰月付の辰の下の之の即の一の

坊の之の初の辰の系の以の後の一の為の之の用の事の

一 苗与辰の種秋の間の之の在の以の後の用の和の相の謝の一の事の

一 退の事の

一 出仕の一面の一の信の者の御定の外の右の列の下の為の之の用の事の

以上

二月

同八申年十月

徳松の振の一の端午の重陽の歳暮の御時の振の事の

御破魔弓就上、次方、修、新、謂

端年

一白銀三枚

五百石より
四百九十石迄

一同五枚

二百石より
九十九石迄

一同拾枚

拾百石より
廿九石迄

一同廿枚

三十石以上

重陽

歳暮

一白銀六枚

五百石より
四百九十石迄

一同拾枚

二百石より
九十九石迄

一同廿枚

拾百石より
廿九石迄

一同三十枚

二百石以上

右、通言、作也、但重陽、御破魔弓

公方御、伏時、服、秋上、一、面、斗、二、袋、上、一

御破魔弓就上、事

右、御、一、門、方、圓、至、城、之、三、方、石、以、上、既、且、臣、品、以、上、一、
病、子、之、酒、井、河、内、与、松、年、同、備、与、石、川、兵、作、与、
牧、鹿、佐、後、与、二、袋、上、有、也、且、亦、葛、蒲、御、甲

同前

延寶八年三月

元

- 一 元日 御平丸ト出仕ノ面ノ同日西丸ト也
- 城方刀月録ハ三月午刻ト以テ前ト以テ使者西丸ト秋ト上ト但在國名代ト使者長袴ト在江戶使者ハト為シ中務事
- 一 二日 御平丸ト出仕ノ面ノ同日西丸ト也
- 城方刀月録ハ二日巳刻ト以テ使者西丸ト秋ト上ト事

- 一 三日 御平丸ト出仕ノ面ノ同日西丸ト也

城方刀月録ハ二日巳刻ト以テ使者西丸ト秋ト上ト事

- 一 五日 西丸ト以下ト三子ト在シ之ノ面ノ 御平丸出仕ノ方刀

月録秋ト上ト一輩ト右ト日限ト之ノ在シ以テ使者ト可ト以テ居リ上ト申ト口トより入リ同朋ト初ト座ト服ト之ノ養ト者ト家ト来ト信ト丸ト一ト調ト使者ト之ノ為シ中務事

但三子ト在シ以下ト之ノ法ト更ト法ト平ト法ト眼ト之ノ面ト也

右同前

- 一 惣法番ト元ト之ノ信ト之ノ醫ト師ト并ト依テ持ト下ト所ト人ト亦
- 西丸トハ六日七日ト為シ度ト之ノ法ト出仕事

半務事

但云石以下、法衣法衣法服、面も右同

一 惣法音礼云宿、醫所并法扶持より、町人亦西九月廿七日、あ日、致出奉

以上

十月

史實九箇年四月

高瀬御甲、完

一 御甲作より三拾部、或拾部、或八間節、金間限八幡、産よりいさ、緋青、緑青、粉色、絵紙、を介推たり、或推たり、或取るより、仕奉

一 御衣、ころみ、取下り、惣合草、おろし、紫草、或赤草、花、色、く、草、十五、通、す、り、け、れ、ぬ、の、掛、葵、の、御、紋、と、勘、丸、の、絵、紙、を、上、に、取、り、緋、青、緑、青、の、粉、色、を、志、ころ、の、表、を、身、に、仕、奉

一 御前、立、物、丸、の、内、に、葵、御、紋、を、か、し、緋、緑、を、あ、り、粉、色、丸、の、合、御、紋、を、下、に、志、ころ、あり、又、ハ

御形又ハ上ノ申月モ外ヨリ之ヲ或ハ後立
柄ニ仕奉

一 御上ノ御同前ノ事
一 御上ノ御同前ノ事

一 御上ノ御同前ノ事

一 御上ノ御同前ノ事

一 御上ノ御同前ノ事

一 御上ノ御同前ノ事

以上

一 全限金具ニ用事

一 糸ノ新カキニ用事

一 糸ノ新カキニ用事

一 糸ノ新カキニ用事

一 御上ノ御同前ノ事

延寶九箇年四月

御形也然ト云

一 作物人形教之亦モ是ナリ減カハ名若ク

- 一 人形よりせむ衣類唐織類は為無用
日本織は物に用之事
- 一 人形載之箱は大きき人形に方但箱は合銀
の箱並に銀は不若御故并絵巻之事と
無用之事
- 一 加賀の物無用はあふし但子掛力くらんと
不若は純正合銀のかたは物仕方及はめつさ
くさし物に似之事
- 一 漆塗之用之事
- 一 家持等之用之事

以上

12月

天和元酉年八月

継目伊礼長祿上西に次有

- 一 又百石より九百九拾石迄 限馬代
- 一 十石より廿石九百石迄 合馬代
- 一 三石より四石九百石迄 合式板
- 一 五石より九石九百石迄 合三枚
- 一 醫者 法平法眼の子
云官の子 三枚束一巻
一束束包

右ノ書付 殿中徳候ニ此書取仕候人
大月付ト向後ト為め付ニ条ノ存テ候ノ旨
貴後与傳進ニ

天和三亥年二月

光

秋上ノ兵服下ケ深故為純子綿孫下為
云用向後ト旨付キ力兵服下ケ為上事
右ノ當書ノ兵服下ケ下相改也

二月

元禄五申年四月

光

一 御白書院

渡御ノ長 御黒書院下廊下

小ノ 御月見仕候所ニ 御黒書院下廊下

在ノ 御白書院 出御ノ長 御月見可

仕事

一 高家流ニ

入御ノ長 廊下間ニ在ノ旨

御月見ト仕事

月次涉礼日向後右ノ通ニ仕候旨

四月

元禄八年二月
元

詔 元

詔 奏者番元

寺社奉行

詔 元 兼 一 元

向後沙礼目小判是合之旨也 城之旨也

月昔一老申 述于旨之相座也

一 法役人元同役述相以 大月付元 又 志

法月付元述之旨相座以上

三月

元禄九子年七月

元

一 御基極 桂昌院極 御袋極

鶴姫君極 不依何品色上極 是位にて元中

出羽寺右京寺 相宣親君 皇次子 可

是乃之旨外のむさより 是上之儀 運用之事

一 右 御女中極 方より 御願極 是位にて時ハ

元中 出羽寺右京寺 方ハ 御願極 了之

系之事

一 系勤又八家叙官位法加増ホ一音物并
献上一法務亮中出羽与右京大夫若年若元
之介ハ云用ノ事 法孔 以系ハ儀也 因前
但法例ハ元更若年法役人元正目付元ホハ
前ノ一通一ハ以法事

一 隠居ノ長并送物ホハ亮中出羽与右京大夫
若年若元ノ介ハ云用ノ事
一 惣与石依何事 願ハ儀ハ亮中出羽与
右京大夫ノ中ハ其ノ外ハ一切云用ノ事
附支配方ニ向ハ支配方ノ事

右ノ諸大名諸法事仍諸役人ノ中 傳一
白後監事ノ法一ハ相違以上

七月

元禄十一年六月

光

御禮代元

是ハ打交マテカ

奥 佐 元
表

右ノ向ノ事 但品以上ハ先官次有 諸事又元

知所為改其先也 御月見不仕有
註 作古其後多ありて多一進出上

六月

元禄十二年十月

光

- 一 口品及拾万石以上一箇一團持痛子ハ出仕時分
尚書居ハ左右進出儀勝手次方ニ由事
但知方或ハ先人ハ一箇ハ外流人ハ進出儀ハ
二 為勝手次方由事
- 一 拾万石以下ニ由事勤儀限ニ外被上拘當ハ良ハ

吳分進一箇尚書居ハ左方ハ右月事仕也
況青子進出儀相返由事

- 一 口持儀及左儀之月ハ左儀由面ハ向後手加り
若知儀後之月ハ口持人先ハ左儀由面由事

元禄十二年十月

光

若年寄支配ハ該段人寄合毎月清札日忘
取ル由也 城守向ハ前日ハ月當進相座
以取ル由一ハ左儀由上

寶永元年申年六月

御昔名相應又公病守あり小菅法入
向後也 城之用は此今返出付は
申す始に外涉孔日且又思位より
向後也 城之用は此今返出付は
申す始に外涉孔日且又思位より
申す始に外涉孔日且又思位より

六月

同年三月

中納言孫秋上様

端午湯祝儀

白浪拾枚

三拾万石以上

同五枚

拾万石より
廿九万九千石迄

同三枚

六万石より
九万九千石迄

同二枚

一萬石より
二万九千石迄

重陽湯
歳量湯祝儀

白浪二十枚

三拾万石以上

同十枚

十萬石より
廿九萬九千石迄

同五枚

五萬石より
九萬九千石迄

同三枚

三萬石より
四萬九千石迄

以上

一 奉天八朝ノ御馬代貞敷

公方様ノ狀上ノ通ニ奉天ノ

寶貞永二酉年正月

申綱云御馬代貞敷ノ狀上ノ通ニ奉天ノ

五萬石より四萬九千石迄

御馬代限三枚

五萬石より九萬九千石迄

御馬代限拾枚ニ奉天ノ金三枚ニ奉天ノ

拾萬石以上

公方様ノ狀上ノ通御馬代限ニ奉天ノ

賞金ニ奉天ノ御馬代限ニ奉天ノ

一 百石以下ハ御馬代斗ニ奉天ノ

一 御馬代斗ニ奉天ノ

一 位様 御馬代斗ニ奉天ノ

一 御馬代斗ニ奉天ノ

以上

寶永二年正月

免

西元正月朔日、清祀、向後布衣、坐、西斗
以上出仕、奉命、而、布衣、坐、斗、以上出仕、
以上

正月

同奉同日月

清祀日西元出仕、免

一朔日清之家方

一十五日万石以上

一廿八日諸役人奉命、不

是、今、近、出、仕、付、け、り、西、元、出、仕、大、將、と、り、上、合、取、
右、通、り、但、年、始、末、日、に、志、清、之、家、方、法、大、名、
諸、役、人、奉、命、今、近、出、仕、付、け、り、之、出、仕、

一二月朔日斗曆斗月給、是、用、同、十、春、共、日、月

朔日九月朔日、八服、紗、給、是、用、之、仕、

一九月九日免、及、小、神、に、加、り、了、り、何、迄、と、り、是、用、
之、仕、

一十月朔日同、春、八服、紗、小、袖、是、用、廿、八、日、斗

曆斗月忌用之供
有紙之互相觸也

閏四月

宝永二酉年閏四月

西九月廿 城ノ元

- 一 十五日由苗子居元大古苗元交野芳合月
表向より清礼ニ云ル面ニ表ノ家
- 一 廿日交野芳合月 清平九月次在元ノ石
以上ノ考合又ハニノ石以上ノ小古苗法平法眼ノ
醫國師

右ノ通ツテ也 城ノ

- 一 右ノ外ニ元前相觸ル在元ノ也 城ノ
- 一 年始ニ當春ノ通ツテ也 城ノ
- 一 又苗子ノ十清ニ取ル苗子有、出仕ノ斗可有
也 城ノ

以上

閏四月

西九月月次出仕ノ元

^{節日}
^{十奇}
 法三家方
 百石以上ノ子 高家元 法苗子居元

大正蓄戸元 文藝者会一月表向多涉乳
存心ゆふ 無宿くの家 金地院
大復興院 林大寺院
布衣及望法後人 文藝者会 二子存心く者会
布衣及望く者会 二子存心く者会 布衣及望く者会
法原法眼醫所 中奥法小性 同法蓄

寶永三庚年三月

光

秋上由一教百或又二十廿十又々又ツ之

二可と用束の始向後此乃一教とも用つ
中右小准一自分く付屋長物もいりこれ
教とも用つ
右と通より一と相違ひ

同庚年十月

光

一 束年始發高年始一通
御平九心 城し向く西九心 發つておれおれ
御右刀馬代も當考く色 御平九心納戸

以上相納

- 一 案呈書一為後儀先申右系を更仔細
- 一 案呈書中より相納は後儀中分前勝手
- 一 次身見合不込合帳にて系止
- 一 案呈書三日より七日迄一月右何儀必込合帳
- 一 勝手次身見にて系止

但月忍一節一奉礼つ為之用

- 一 守社しを奉てお高き一進い并所人
- 一 法職人ホ養の同所
- 一 前にも相觸り進供一各火給一振下

以上致し

十一月

寶永三庚年十一月

布衣以下わろき一奉て清礼奉るる儀
西九下系上系不及但之子石以上一画一と可
系上

十一月

同日亥年七月

- 一 家子代極奉始八朝一献上物
- 一 此之家始檢方所以上嫡子隠長一御方

御馬代共全三枚但拾万石以下三石も
 公方極 大納言極 全馬代致然上東
 面ハ
 家子代極 共全馬代三枚上
 一拾万石より以下三万石以上六御方御馬代
 銀三枚
 右何枚 御平九より三納言 万石以下
 面ハ
 家子代極 八名及被上
 右通より相觸以上

七月

寶永四亥年八月

家子代極 涉祝儀 一光

御平

白銀五枚

三拾万石以上

同三枚

拾万石より
廿九万石以下

同貳枚

五万石より
九万九千石以下

同壹枚

三万石より
四万九千石以下

重陽

白浪拾枝

三拾万石以上

同又枝

拾万石より
廿九万九千石迄

同三枝

五万石より
九万九千石迄

同貳枝

一万石より
四万九千石迄

歳暮

右同以

右之通つる者止

寶貝永六七年二月

免

一 向後系勤之節御用弛然上納之費用
に仕事

一 充中執前より若年寄より若納之儀品迄
表立の品より御用弛然之品迄并同に見舞
とて之を御用之仕事

一 自今祝儀物亦相續の長馬代持代以外
且又増廻之身付服付之千石限可為心
次第以外外に不依何一品為千代

全張言致吾相以後皆之用正白後
 看代了相山何与茂經者用下
 一 作重之用并檢重之經之具
 一 御致付了不給之紙新色之角之事
 一 願中候七月番老中若年寄元外
 一 既之支配之由備下進出和向より
 一 不依何事就候一切中進出交子
 一 充申執前若年寄中家來據相候
 親類并由緒之由より相給候
 各川主より賜取不候一切交調

侍了世中留守事

以上

寶永六年三月

光

惣百色奉手始末長月次清孔日平外
 出仕長 殿中言作法不宣も有候
 相因候今度
 佛代整清孔初候後身作法能格外
 成候事相心以候

三月

寶永七年二月

光

- 一 上極 佛基極々年中然也後
- 一 佛先代之格と通つて也也
- 一 前々より之來り通泉なる因取すも如き
- 一 下々之に近年 若相の多し元と京と下
- 一 若上は元新視、若上は依りて二月也
- 一 月次佛結進解、秋と也也年八月者、
- 一 限り上向後必以兼群者又、相急成
- 一 干者、上格と也、下と也也

右に通つて相解也

二月

同年十月二日

今晚玄指沙院也

御子自佛解下戴、面々為沙孔明中
死中間於然前より上と相也

十月

寶永七年六月

光

献上羽衣毛織草類先親為下近年

相中分元ノ事ニ至リテ然ル也

六月

正徳元卯年七月

光

帝繼間列

柳間列

文智考合

表字家

右宮白月次伊礼出立ノ儀入交リ云々
向後右ノ儀を以相中ノ合作法能伊礼
下中上ノ礼伊礼兼テ席ニ至
殿中洲細名仕振テ相中列

右ノ通

伊出考方下ノ取テ能ハ上

七月

同奉同月

光

奉始文良白月次伊礼長清次一
御月見ノ面ニ作法能伊礼下上ノ光
伊礼兼テ能ハ上
殿中洲細名仕振テ相中列
右ノ通云々 伊出考方下ノ取テ能ハ上

七月

正徳元卯年七月

光

一 於大廣間在由涉乳之面、向後九人元
光

一 八朔七人元光

一 月次涉乳之面、今迄通九人元光

光

右通大目付申、中後、右、下、左、取、在、取、以
以上

七月

正徳二辰年六月

嘉定涉乳、衣布衣、以、下、考、合、右、在、以、上、
也、城、又、百、石、下、命、不、及、出、仕、以、上、
于、急、下、相、觸、也

同奉十二月

光

一 來、廿、日、嚴、著、一、涉、乳、儀、如、例、年、上、
事

一 天、英、院、極、前、一、通、之、元、光、上、
事

一 月、光、院、極、前、一、通、之、元、光、上、
事

相、違、以、事

以上

十二月

正徳二辰年十二月

歲暮、清祝儀

月光院松

銀拾枚

尾張中納言殿

紀伊中納言殿

松平加賀守

水戸中納言殿

松平若狭守

同又枚

同之枚

右通進上松張、以書付上

銀又枚元

貳拾百石以上

同之枚元

拾万石以上

宗對馬守

同式枚元

又万石以上

毛利又四郎

以上

右通進上松張、以書付上

正徳三巳年四月

元

一月月三日瑞年、清祝儀如例年上り事

一 位極前へ通下る事
 一 月光院極左へ通下る事
 一 月光院極右へ通下る事
 銀三枚
 同貳枚
 同壹枚
 右へ通下る事
 一 皇陽へ通下る事

貳拾万石以上
 拾万石以上
 宗對馬守
 又万石以上
 毛利又臣

月光院極去年へ歳當へ通下る事
 比事
 右へ通下る事

正徳三己年六月

月光院極女中
 年
 園田

右へ通下る事

同日午年二月

月光院極女中
年表の

かい津

右並一通向後宿物有^一若^二い^三官^四を^五延^六可^七
云^八年^九也^十

名^一吹

かい津

ふく井

そ^一乃^二也^三

表使三坂兼川湯汲器^一信^二付^三録^四及^五
女中^六茂^七之^八坂^九兼^十川^{一十一}と^{十二}中^{十三}也^{十四}

名^一吹
表使

表井

山石城

吉羽

三坂

兼川

右^一通^二成^三留^四之^五湯^六之^七意^八是^九又^十一^{十一}也^{十二}
正徳^{一十三}己^{十四}年^{十五}年^{十六}之^{十七}月^{十八}

月光院極女中

六條

月光院極大奉寄同類向後贈物有
答之由之通下之奉寄

名一取

六條

小津

福井

その田

右一通之由寄下之於之意以上

正徳又未奉七月

佛誕生日一佛祝向後七月は日成らるる
面々此候下之相觸以上

七月

同年十月

去庫

公音極大奉寄云
之通下之奉寄

作付向後贈物有之由寄

名一取

豊原

為橋井

三宅

高瀬

川崎

丹後
出乳人
倉橋
兵庫

右ノ通リ旨ノ事ナリ

十月

正徳六年十二月

出乳人ノ旨ニ依リ正月元日迄ノ旨

奉申奉正月十日ニ至ル旨

十月

正徳六年閏二月

二月朔日

二月朔日

右ノ旨ノ事ニ依リ正月元日迄ノ旨

奉申奉正月十日ニ至ル旨

閏二月

同年四月

一位極上ノ旨ニ依リ正月元日迄ノ旨

奉申奉正月十日ニ至ル旨

一位極上ノ旨ニ依リ正月元日迄ノ旨

此後ハ相ノ年ニ

己月

正徳六年六月

月光院極ニ清沙院儀ハ沙院事ニ付テ然レ而モ

其外ハ別ニ色上ニ相ノ向後ニ用ニ付テ流

月光院極ニ思ハ石ニ次女ニ申ニ付テ茂徳ハ相ノ不及ニ

六月

同奉同月

六年

為レ經レ井

之ニ室

子ノ瀨

表ニ使

岩ノ城

三ノ坂

右ニ分ハ斗ノ向後ニ得ル也ハ一ニ管ノ者ハ子ノ後ニ為レ

下ニ相ノ年ニ

六月